

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2011年1月20日

1. 概要

実践団体名	千葉県立市川西高等学校		
連絡先	047-371-2841		
プランタイトル	2つの川に囲まれた我が高校～地域と共に防ごう・助けよう・考えよう～		
プランの対象者	高校生、教職員、地域住民	対象とする災害種別	水害

【プランの目的・ここがポイント！】

学校の教育活動における防災教育に「春木川と国分川に関連する課題」を系統的・組織的に取り入れ、生徒が学んだことを地域に積極的に情報発信し、周辺地域をリードしながら、地域と連携した取り組みを行ったこと。

【プランの概要】

コーディネーターによる講演会（9月、12月、1月）
 全校生徒、教職員、地域住民対象に、水害への講演会を実施する。
 高校生防災パワーアップ講座参加（7月）。
 地域フォーラムの開催（8月）。
 水害における防災についての啓発運動、地域へ水害に対する防災についての発信を行う。
 市川市総合防災訓練（防災ひろば）への参加（8月）。九都県市合同防災訓練（千葉県会場）参加（9月）。文化祭を活用した防災（水害）啓発運動（9月）。防災環境学習会（年3回実施）。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

水害における防災教育効果と共に、河川を活用した体験の中から環境を保護する意識醸成のためにも非常に有効な手段である。さらに、将来、水資源の重要性や環境の保護や維持する意識の醸成により、環境をよりよく理解する人材育成に有効である。水害の視点から情報を学校から発信して、学校と地域住民とが情報の共有化を確立することで、学校と地域の間に強いネットワークを構築できる

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録（2010年度）

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2010年 6月	【調査】 春木川排水機場と 地下貯留地、国分川 調整池。	真間川改修事務所、 葛南地域整備センタ ー、市川市危機管理部 との連絡。	本校生徒（防災教育チャレンジプ ラン係）代表者10名と職員2名で 各自治体の協力により、流域全体で の治水対策・観測体制の調査。
2010年 7月	【高校生防災パワ ーアップ講座の参 加】	防災教育のリーダー 養成のために。	防災教育リーダー20名を千葉県 教育委員会主催の高校生防災パワ ーアップ講座に参加。
2010年 8月	【地域フォーラム での実践発表】 【市川市総合防災 訓練での実践発表】	実践発表用のポスタ ー作成。防災アンケー トの作成。	地域住民、大学教授、近隣小・中 学校校長等に生徒がポスターセッシ ョン形式で発表。及びアンケート調 査を実施。
2010年 9月	【九都縣市合同防 災訓練参加】 【文化祭での実践 発表】	実践発表用のポスタ ー作成。 アンケート結果の中 間集計。	地域住民、近隣小・中学生、保護 者等に生徒がポスターセッション形 式で防災啓発発表。及びアンケート 調査を実施。
2010年 9月	【水害防災教育講 演会】	講演会内容の確認、 及び資料等の準備。	ハレックス気象担当部長 市澤成 介氏による「水害について、台 風のしくみ」の講演会を実施。
2010年 10月	【防災フォーラム 有明中間報告発表】	発表のための資料作 成。	防災フォーラム有明中間報告発表。
2010年 10月	【防災教育講演会】	講演会内容の確認、 及び資料等の準備。	ユネスコ・アジア文化センター 芝尾智子様、小澤由香様による防災 ワークショップ及び防災DVD「防 災村づくり」試聴。
2011年 1月	【防災教育講演会】	講演会内容の確認、 及び資料等の準備。	静岡大学 防災総合センター准教 授 牛山素行氏による「高校生防災 基礎講座」講演会を実施。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	地域フォーラムでの実践発表
実施月日（曜日）	2010年8月6日（金）
実施場所	本校図書室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校教諭、本校生徒 氏 名：館野文彦、本校2学年生徒 所属・役職等：市川西高等学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	30分
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	災害に強い地域をつくる。
達成目標	生徒のコミュニケーション能力の向上と地域住民への防災意識向上。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ① 代表生徒2名が実践発表 ② ポスターセッションで形式で説明。 ③ 他の生徒4名がポスターの掲示及びボード展示。 ④ 質疑応答 ⑤ 防災意識向上アンケートの記入、提出。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	大判プリンターマックスアートにてポスター大に印刷。 のぼり旗（防災教育チャレンジプラン用）。 生徒、教職員。
参加人数	50名
経費の総額・内訳概要	106,217円（大判プリンタ用ロール紙、インク、のぼり旗）
成果と課題	<p>【成果】 地域住民、大学教授、近隣小・中学校校長等に水害への意識向上が図られた。</p> <p>【課題】 河川氾濫への対策と自治体との協力が今後の課題。</p>
成果物	ポスターセッション用防災ポスター。

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム②】

タイトル	市川市総合防災訓練での実践発表
実施月日（曜日）	2010年8月29日（日）
実施場所	市川市大洲防災公園（防災ひろば）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：千葉県、市川市 氏 名：代表：布施高広、川上親徳 所属・役職等：千葉県消防地震防災課、市川市危機管理部
所要時間または「コマ数×単位時間」	5時間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	災害に強い地域をつくる
達成目標	生徒のコミュニケーション能力向上と地域住民への防災意識向上。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 発表ブースにて9時から15時まで展示及び説明 ・ アンケートの記入 ・ 河川氾濫の説明 ・ 市川市ハザードマップの説明及び配布 ②ステージにて30分間ポスターセッション形式で実践発表
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	本校生徒30名、職員3名 展示ボード、のぼり旗、ハザードマップ、ポスター
参加人数	地域住民等 来場500名 アンケート参加者200名
経費の総額・内訳概要	17,849円 大版プリンタ用ロール紙大・中
成果と課題	【成果】地域住民、自治体、参加団体等に水害への意識向上が図られた。 【課題】ハザードマップの普及率が低いことを受け、自治体との協力の必要性。
成果物	ポスターセッション用防災ポスター。ハザードマップ拡大

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム③】

タイトル	水害防災教育講演会
実施月日（曜日）	2010年9月16日（木）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：市澤 成介 氏 所属・役職等：ハレックス気象担当部長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	70分
プログラムの カテゴリ、形式	講演会
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	本校生徒の水害に対する防災知識を深める
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	講師によるパワーポイントを用いての講演 講師による資料を用いての講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	講師による台風のしくみ、被害、防災についてのパワーポイント 講師提供の資料
参加人数	本校生徒及び職員 170名
経費の総額・内訳概要	53,654円 講師謝金、講演会資料カラー印刷製本
成果と課題	【成果】 台風のしくみ、被害、防災についての知識が深まった。 【課題】 やや本校生徒には気象の細かな知識不足のため、理解がやや不足したかたちであった。
成果物	台風のしくみ・被害・水害に対する防災資料

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ろ う ん 最 終 報 告 書

【実践プログラム④】

タイトル	E S D防災教育
実施月日（曜日）	2010年10月21日（木）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：柴尾智子 小澤由香 所属・役職等：ユネスコ・アジア文化センター 教育協力課
所要時間または「コマ数×単位時間」	70分
プログラムのカテゴリ、形式	講演会・学習会・ワークショップ
活動目的	防災意識を高める
達成目標	本校生徒に対する防災知識を深める
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 講師によるパワーポイントによる防災講話 ② 講師と生徒によるワークショップ ③ 防災教育DVD「防災村づくり」試聴 ④ 質疑応答
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	講師によるパワーポイントによる防災講話資料 クイズ形式によるワークショップポスター 防災DVD
参加人数	330名
経費の総額・内訳概要	22,885円 大判プリンタ印刷ロール紙小、PPC用紙
成果と課題	【成果】ワークショップで全生徒参加型であった。 【課題】ESDと防災の関係をどのレベルまで知識を高めるか。
成果物	クイズ形式によるワークショップポスター

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑤】

タイトル	高校生防災教育基礎講座
実施月日（曜日）	2010年12月17日（金）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：牛山 素行 所属・役職等：静岡大学 防災総合センター准教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分
プログラムのカテゴリ、形式	講演会
活動目的	防災意識を高める
達成目標	災害に対応できる能力の育成
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 講師によるパワーポイントによる防災講話 ② 資料配付による説明 ③ 質疑応答
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	講師によるパワーポイントによる防災講話資料 防災講話資料及び防災ポスター ハザードマップポスター
参加人数	500名
経費の総額・内訳概要	54,260円 大判プリンタ用インク・キット
成果と課題	【成果】河川氾濫、被害、防災についての知識が深まった。 【課題】あらゆる被害を想定した取組の必要性を感じた。
成果物	防災講話資料及び防災ポスター、ハザードマップポスター

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>2つの川に囲まれた本校は、近年の極端な気象によるゲリラ豪雨や台風等による「はん濫」「水害」が想定される。 高校生が共助の担い手であることを認識させるとともに、水害発生時に的確に行動できるようにさせるための効果的な方法を見出すことに時間を要した。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>2つの川に囲まれた本校は、近年の極端な気象によるゲリラ豪雨や台風等による「はん濫」「水害」が想定される。 このことは、学校に限らず、地域住民においても大きな問題となってくる。これを踏まえ、地域と連携した水害への取り組みを、学校が発信することが必要と考えてきたが、なかなか地域住民の協力が難しい現状であった。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>地域住民との協力をもとに、水害に対する防災教育や避難対策が必要とされるが、学校独自では厳しい現状であり、官公庁や地元消防団等関係機関との連携が必要であると考えた。初めての試みであることから、試行錯誤しながら連携が必要な関係機関、連絡方法を確立していった。 本分野のコーディネーターの情報が少なく、選定や日程の調整に時間を要した。</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	千葉県教育委員会 ユネスコ・アジア文化センター 開かれた学校づくり委員会	防災講演会の講師 アンケート協力 資料提供
保護者・ PTAの組織	市川西高校保護者会 市川北高校PTA	アンケート協力 文化祭での実践発表の支援
地域組織	市川ケーブルTV 明光企画 市川市ユネスコ協会 市川みどりと川を守る会	防災広報活動 地域連携の支援
国・地方公共団体・ 公共施設	千葉県総務部消防地震防災課 市川市 危機管理部、福祉部 千葉県環境生活部 文部科学省 ユネスコ国内委員会 真間川改修事務所	資料提供 講演会講師紹介 調査協力
企業・ 産業関連の組合等	東京ベイ信用金庫 ハレックス	講演会支援 地域連携の協力
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	V A I C コミュニティケア研究所 NPO 法人レスキューストックヤード	地域連携の支援 講演会講師
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	ありません	ありません

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境要因等の調査によって、生徒達の環境保全への意識が高まった。 2 防災への啓発運動やポスターセッションにより、生徒達のコミュニケーション能力の向上がみられた。 3 災害発生時に自己の安全を確保し、高校生として周囲のために何ができるかを考えることで、ボランティア活動への理解と社会の一員としての意識を育てることができた。 4 高校生こそが災害発生時には介助の中心となるという自覚が定着させることができつつある。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校が位置する「春木川」と「国分川」を系統的・組織的に、学校の教育活動における防災教育を取り入れることにより、高等学校が積極的に地域への情報発信を行い、周辺地域をリードしながら、地域と連携した取り組みを行うことの大切さを学んだ。 2 地域一帯型の防災として地域住民・官公庁と協力のもと、避難対策の構築、避難のあり方、要介護者の避難のあり方、地方自治体からの避難情報のあり方、河川の観測体制、福祉資源と防災との連携や河川整備などのハード対策と一体的に、浸水シミュレーションの確立や洪水ハザードマップの整備及び公表などのソフト対策を促進することが今後急務であると感じた。
<p>今後の 継続予定</p>	<p>本校の教育の柱であるE S D（持続発展教育）の環境教育のなかで、防災教育を今後も教育活動に織り交ぜて行く予定である。</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

平成22年度 県立研究費 千葉県立市川西高等学校
 魅力ある高等学校づくりのための取組

ESD(持続発展教育)実践に向けて 県内公立高校初のユネスコスクール!

【ユネスコスクール研究費】

地球規模の視点に立った教育を行っています。

Education for Sustainable Development

対川整備基金 助成事業実施校

防災教育チャレンジプラン研究実践校

ユネスコアジア交流フェロウシップ事業

原子力・エネルギー教育支援事業研究校

キャリア教育としての全履教育研究校

異校連携交流と地球連携行事参加

ESDの基本的な考え方

- 主体的な学習
- 持続可能な発展のための知識、態度、行動
- 国際理解教育

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ②

防災（水害）に関するアンケート調査結果

千葉県立市川西高等学校

アンケート対象者

開かれた学校づくり委員、学校近隣住民、市川市防災訓練（防災ひろば）、文化祭一般参加者等

アンケート回答数

313名

防災（水害）意識調査

- 1 気候変動、異常気象、地球温暖化、海面水位の上昇、ゲリラ豪雨、局地的大雨、台風の強度が増大などの言葉を聞いて感じることはなんですか？

A 最近特に地球規模的（全世界的）に異常気象として問題となっていると思う。	283	90%
B 日本は大丈夫だと思う。	15	5%
C 特に問題ではなく、安全だと思う。	15	5%

- 2 家族と離れている時に水害があった場合、集合場所や連絡方法を決めていますか？

A 集合場所も連絡方法も、どちらも決めている。	87	28%
B 集合場所か連絡方法の、どちらかだけ決めている。	88	28%
C 集合場所も連絡方法も、どちらも特に決めていない。	138	44%

- 3 水害発生時には、避難場所はどこかを知っていますか？

A 知っている。	159	51%
B とにかく広い場所（学校や公園）に避難する。	76	24%
C 知らない。	78	25%

- 4 市川市の洪水ハザードマップについてお聞きします。

A 知っている。自宅に貼ってある。	62	20%
B 聞いたり、見たことはある。	126	40%
C 全く知らない。見たこともない。	125	40%

防 災 教 育 千 葉 市 立 市 川 西 高 等 学 校 最 終 報 告 書

7. 自由記述欄 ③

5	川が突如、「氾濫した」場合の対策についてお聞きします。		
	A 水害の対策はできている。	114	36%
	B 避難するから、対策は必要ない。	127	41%
	C 氾濫することはないから対策はいらない。	72	23%
6	学校と地域住民が連携しての、水害対策への取組についてお聞きします。		
	A 今の異常気象を考えると、早急に対策に 取り組むべきである。	239	76%
	B 水害対策は地域住民や学校の問題ではない。	39	13%
	C 対策は必要ない。	35	11%
7	災害に強い街づくりを構築することについてお聞きします。		
	A 災害に強い街づくりは必要である。	252	81%
	B 市川市は災害に強い街である。	32	10%
	C 必要ない。	29	9%
8	市川市の真間川水系の国分川や春木川等が氾濫したり、市内で道路などが冠水した状況についてお聞きします。		
	A 知っている。見ている。	129	41%
	B 昔、あったことを聞いたことがある。	103	33%
	C 全く知らない。	81	26%